

令和4年度 第1回栗東市男女共同参画社会づくり推進協議会議事概要

日 時	令和4年8月4日（木） 14:00～15:30		
場 所	市庁舎4階 第3、4委員会室		
出席者	（順不同敬称略） 【委 員】 勝身真理子、今西順子、宮城宏己、内記一彦、中野和雄、 田中千代子、奥村真美、森野公美子、福本英子 市長、栗東市男女共同参画社会づくり推進委員会幹事 【事務局】 中嶋市民財政部長、川津課長、大西補佐、片岡		
欠席者	4名	傍聴者	なし
議 題	①栗東市における男女共同参画に関する取組みについて…ひとが輝くパートナープラン《栗東市男女共同参画プラン（第6版）》における各課の取組みについて		
資 料	① 令和4年度ひとが輝くパートナープラン《栗東市男女共同参画プラン（第6版）》における各課の目標と具体的な取組み		

1. 開 会

2. 市民憲章、栗東市男女共同参画都市宣言黙読

3. あいさつ

（会長）

新型コロナウイルス感染拡大の中で市長をはじめ行政、医療関係者の皆様には大変ご尽力いただいております。感謝申し上げます。

さて、先月公表されたジェンダーギャップ指数で日本は146カ国中、116位と未だに低迷が続いている。特に政治、経済の分野の女性の参画が低い。一方、昨年のユーキャン新語・流行語大賞トップ10にジェンダー平等がランクインされたり、SDGsのジェンダー平等など、国民生活の中で理解や関心が広がってきていると感じている。先頃、開催されたきらめきRitto 実行委員会も主催団体となっているじんけんセミナーでは、LGBTをテーマに多くの市民が参加されており、市民の皆様の関心が高まってきていることも感じた。8月1日発行の「自治連だより」第101号では登壇された

自治会長5人のうち2人が女性で今後さらに期待をしているところ。特に、その中で取り上げられていた地域防災では、女性をはじめ多様な立場の人たちの知見が生かされることを願っている。

本日は計画を実践していく中での報告やご審議となるが、新しい委員を迎え、忌憚のない意見を賜りたい。

(市長)

男女共同参画というのは自分らしく生きていくために大変重要なことと思っている。自分が自分らしく、そして相手を思いやって男性女性に関わらず人の気持ちを汲んだうえで事業を進めていくことが大事で、人の連携がいかに大切であるかということを痛感している。コロナ禍については、昨日、新たに滋賀県内で新型コロナウイルス感染症患者2,238名が確認されており、うち栗東市が210名と今までで一番多くなっている。しかし数字に一喜一憂するのではなくこれからやっていくべきことを見据えたうえで考えていかなければならないと思っている。先日、対策本部会議を開催し、濃厚接触者の取り扱いを一部変えさせていただいた。

この審議会の中で話し合っただきながらかたちを求めていくということが大変重要になっていく。普段気付かない点等、意見を賜る中で前を向いて進められるようにしていきたい。

4. 委員の委嘱について

(市長中座)

5. 協議事項

①会議の公開について

…公開

②栗東市における男女共同参画に関する取組みについて…ひとが輝くパートナープラン《栗東市男女共同参画プラン（第6版）》における各課の取組みについて …資料1に基づき事務局より説明

(会長)

それでは質問、ご意見をどうぞ。

(副会長)

1点目、シングルマザーの方についての支援、2点目、ヤングケアラーの実態把握、

3 点目、障がい者の高齢化の問題についてお答えいただきたい。

(子育て応援課)

1 点目について母子・父子自立支援員が対応にあたっており、内容としては就労相談、子どもの養育問題、具体的には就学や就職についての相談がある。ヤングケアラーについては具体的な数字等は把握していない。

(障がい福祉課)

障がい者の方には高齢者とは違うサービスを提供させていただいており、高齢者に切り替わる 65 歳時に介護保険に移行するという事で、障がい、高齢両方の担当者がチームを組んで当事者の方と相談させていただいて移行を進めていっている。ただ、障がい特性によっては高齢期であってもそのまま必要とされる障がい福祉サービスを使わせていただくこともある。訪問介護についても同様で、利用者の方の生活に支障が出ないようサービスの提供を行っている。

(副会長)

ある程度の年齢に達した子の相談支援については理解したが、産まれて間もない子のいるシングルマザーへの支援についてはどうなっているのか、施設などはあるのか。

(子育て応援課)

家庭児童相談室で対応している。市内には入所できる施設はないが、必要な方には近隣市にある施設に一時保護などの措置をさせていただいている。

(副会長)

障がい者のためのデイサービスはどうなっているのか。

(障がい福祉課)

障がい者の場合、若い頃から作業所に通っておられる方が多く、人によっては 70 歳位まで通っておられて、そこで過ごしておられる。そうして介護が必要になってくれば高齢の担当者とのチームで対応、複合的なサービスを使わせていただくことができる。

(会長)

各委員、質問等をどうぞ。

(委員)

資料 2 ページ「男性の育児参加促進のための取組み」に「お父さんアンケート」とあ

るが、どういうものか。

(子育て応援課)

児童館に来られたお父さんに対し、どんな講座を希望されるかなどを聞き取るアンケートである。

(委員)

4 ページ「DV被害者への支援」に「女性相談員を配置し、」とあり、これは女性を対象とした相談員であると思われるが、男性が相談したい場合はどうなるのか。

(子育て応援課)

その場合は滋賀県が実施している男性相談を案内している。

(委員)

3 ページ「地域における男女共同参画の視点を持った子どもの育成」でアドベンチャーキャンプなど異年齢の集団での取組みをあげていただいているが、学校教育の中でもコロナ禍もあり出来ていない状況があるが、具体的な内容を聞かせていただきたい。

(生涯学習課)

アドベンチャーキャンプについて、宿泊での実施を予定していたが、コロナ禍により中止としたため、昨年、一昨年と同様、日帰りで実施できないか検討している。ここ近年の参加者の状況を見ていると女性が多く、特に日帰りでの実施になってからは圧倒的に女性の参加者が多くなっている。

(会長)

成果指標の「女性における新規創業の実現件数」「女性における新規創業の相談件数」令和3年度実績値が目標値を大きく上回っているが、その内容について補足説明いただきたい。

(商工観光労政課)

女性の方が就労も含めて自立創業へと繋がっていくことは素晴らしいことであり、細かい分析については今後進めていきたい。

(会長)

今回の会議でお示しいただきたい。ほかにご質問、ご意見をどうぞ。

(福本委員)

相談に来たら受け入れます、ということではなく手を差し伸べてもらえるとよい。助けて欲しくても当事者はなかなか声をあげられない。自分自身も子どもの通っている園の先生から声を掛けてもらったことがある、声を掛けてもらって助かったと思ったことがある。

(幼児保育課)

園では日頃、保護者の方が送迎をされているので、保護者との関わりを大切にしている。その中でいつもと様子が違うなと感じたら声掛けをして保護者の方の変化に気づき、保育者間で情報共有をしながら保護者の方に寄り添う事を大切にしている。

(委員)

ひとり親の相談にのっているが、何を相談していいか自分でわからない人がいる、相談を受ける側から提案するような形で相談にのってあげてほしい。

(健康増進課)

健康増進課では妊娠されて母子手帳を取りに来られた際にお話をさせていただいており、必要があれば家庭児童相談室等連携して対応している。乳幼児健診の際にも同様に対応させていただいている。

(会長)

滋賀県では支援になかなか繋がらない人を対象に相談の場や居場所づくりに繋げていこうとする取組みがある、栗東市ではどうか。

(自治振興課)

昨年度、国の地域女性活躍推進交付金を活用し、りっとうつながりサポート事業を実施、コロナ禍における女性の居場所づくり等に取り組み、社会福祉協議会に相談窓口の設置を委託、庁内体制も構築した。国の事業としては昨年度で終了したが、この事業を契機に連携・繋がり体制は引き続きとっており、居場所づくり等、支援に努めている。

(健康増進課)

月齢0から3か月の子の母親を対象におしゃべり会を今年度開始した。何かをするというのではなく、互いに話をする中で参加者同士が連絡先の交換等がされている。また健康相談を今年度、初めて一部の児童館で実施、児童館に来たことが無い人にも児童館を知ってもらうことができた。

(会長)

メールや電話、QRコードからの相談など、国や県などの相談窓口のご紹介も含め工夫をしていただければと思う。健康推進員は日頃どのような活動をされているのか。

(委員)

コロナ禍で昨年度、一昨年度と何もできていない、今年度は少しずつ前向きにやっていこうかと役員同士で話をしている。

(委員)

こういった問題を解決していくことは当然ではあるが、大人の意識の問題もあるので。発生自体を減らしていくには、大人が子どもに教えていくことが大切で、そうすれば発生自体はゼロにはならないけれども少なくなっていくのではと考える。英語や数学を教えることも大事であるが、人としてどういう生き方をするかということを考えることもこのような問題の解決にとって大切な事であると思っている。

(会長)

そのためには、学校教育と保護者の両方がジェンダー平等や性的指向等も含めて取り組んでいかなくてはならない。市の取り組みを要望する。

(委員)

自治連でも女性の参画が少ないと思っている。自治会活動に女性ができるだけ多く参加できるよう地域で考えていきたいと考えている。

(会長)

例えば、自治会で物事を決める時に、世帯が一つの単位となっている場合が多いが、世帯員一人一人が一票を持つということになれば、多様な意見が生かされるなどして、いろいろと変わってくるのかと思う。

(委員)

男女共同参画の問題についてはごく普通にやっていけばいいと思っている。先程から障がい者や子どもの問題が出てきたが、学校で先生からきちんと教えていただければと思う。私たちも子どもから聞く機会もあるし、私たちの勉強にもなるので。

(会長)

今後もこういった議論の積み重ねを通じて、市の施策を皆さんに知っていただきながら、市の先駆的な施策を考えていけばいいと思う。

ほかに意見等ある場合はメール等で事務局に連絡をお願いする。

6. その他

7. 閉会

(副会長)

人が生き生きと輝くためには、日々、幸せを感じる事が大切である。世界幸福度ランキングで日本は54位だった。幸せについて改めて考えると、ある研究結果で長続きしない幸せと長続きする幸せがあるそうである。長続きしない幸せとは、お金、モノ、地位だそうである。長続きする幸せとは、やってみよう、ありがとう、何とかなる、ありのままにで、この4つの意識が高くなった時、幸せを感じるそうである。このパートナープランの取組みにより、栗東市民がより生き生きと前向きに幸せを実感できることを願っている。